

めあて 箱ひげ図について理解し、問題を解けるようになるう。



この単元の学習は中学校1年生の「資料の分析と活用」が基になっています。使われている語句の意味が分からない場合は、もう一度教科書やノートを振り返ってみましょう。

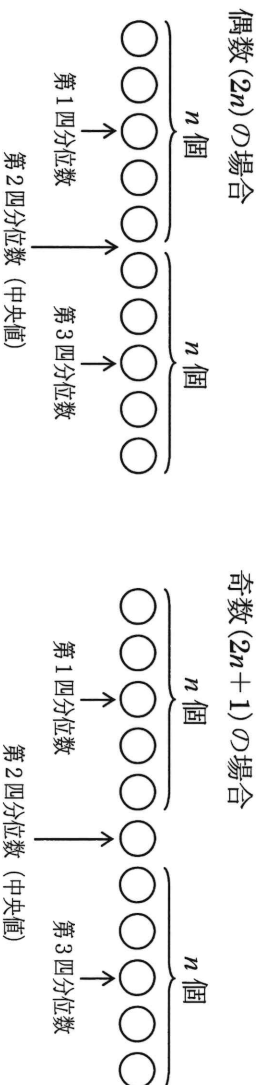


補助教材 P.10・11 を読み、下の () にあてはまることばを書きなさい。

学習のポイント

複数のデータの分布を比較するとき、(箱ひげ図) を用いることがある。データを小さい方から順に並べ、4等分したときの3つの区切りの値を四分位数といい、小さい方から順に、第1四分位数、第2四分位数、第3四分位数という。第2四分位数とは(中央値)のことである。

四分位数の求め方



「第2四分位数(中央値)」の求め方は中1の時の学習内容だね。



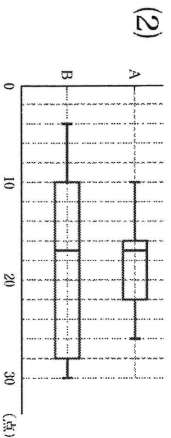
補助教材 P.11 の例1を読み、P.15の章の問題 B-1 をやってみよう。

(1)

A	10	16	17	22	26
B	4	10	17	28	30

四分位範囲は

A : 6点, B : 18点



(3) (例)

- Aを選ぶ。
AとBは、中央値は等しいが、散らばりのようすが異なる。Bは範囲も四分位範囲も大きいため、好調なときと不調なときの差が大きいと考えられる。それに対して、Aは範囲も四分位範囲も小さく、安定して得点を決められると予想できる。
- Bを選ぶ。
AとBは、中央値と平均値は等しいが、Bの第3四分位数がAの最大値よりも大きい。したがって、Bのほうが高得点をあげることが期待できる。